

心理学分野におけるオープンアクセスの進展

—『筑波大学心理学研究』掲載論文の引用調査から—

筑波大学 情報学群
知識情報・図書館学類

大原 司

同志社大学 社会学部
教育文化学科

佐藤 翔

筑波大学
図書館情報メディア系

逸村 裕

研究目的

国内心理学分野におけるオープンアクセス(OA)の進展状況を明らかにする。

研究背景

国内の論文がどの程度OAとなっているかについて明らかにした研究はほとんどない。

本研究では、OAの認知、利用経験について調査が行われている、国内の心理学分野を対象として、論文の公開状態調査を行う。

まとめ

最近引用された論文ほど、2013年、引用時にOAであるものの割合が高くなっている傾向が見られる

遡及的に論文のOA化がされている

→ 国内心理学分野におけるOAは進展している

制限付きOA、有料全文がほとんどない

→ OAでない論文が電子化されていない

調査対象

2006年以降刊行の『筑波大学心理学研究』に掲載された論文(158本)から引用された、和雑誌もしくは日本語の論文1,109本

調査方法

Googleを用いたWeb検索

全文が閲覧可能である論文のOAの実現手段と公開日を記録

Google検索

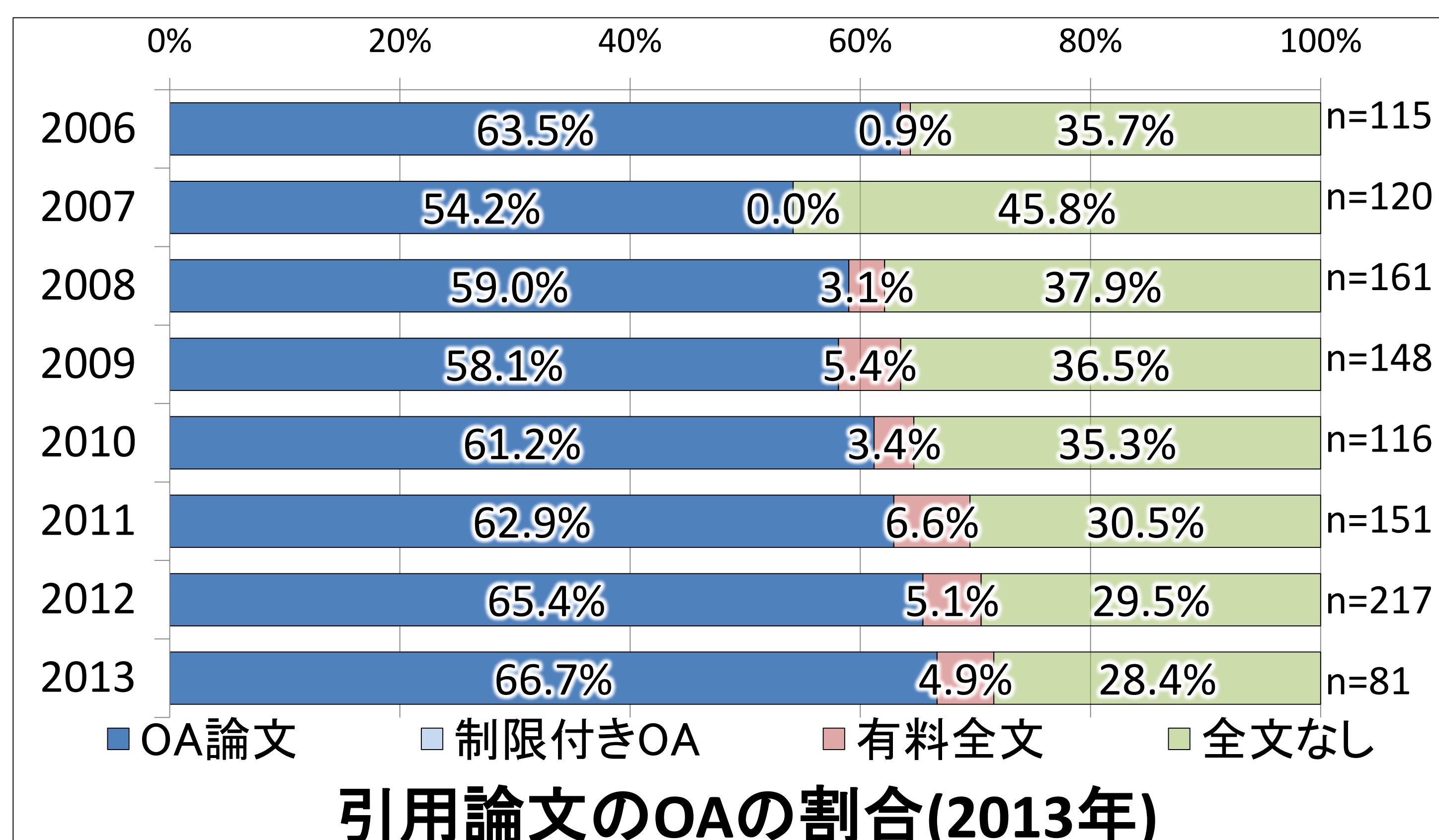
検索語：タイトルと著者名
検索結果上位20件を調査
調査期間：2014年12月1日
～同月16日



Google検索のイメージ

調査結果

縦軸は論文の引用年(引用元の論文の出版年)



引用論文のOAの割合(2013年)

→ 最近引用された論文ほど、2013年にOAであるものの割合が高くなっている傾向が見られる

→ 制限付きOA、有料全文がほとんどない

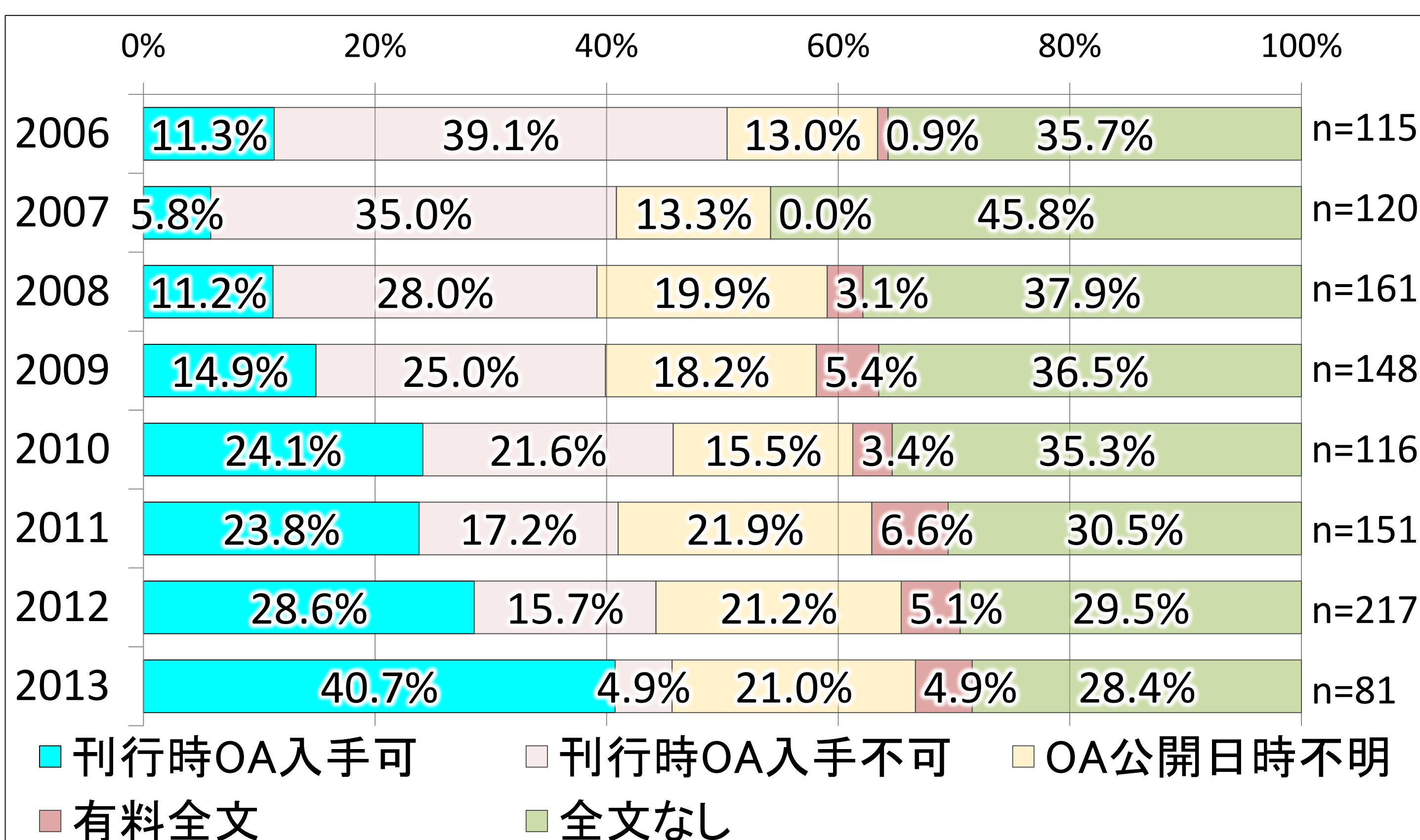
調査結果

引用時の公開状態でOA論文をさらに区別

OA公開日が各号刊行日以前 → 刊行時OA入手可

OA公開日が各号刊行日以降 → 刊行時OA入手不可

OA公開日が不明 → OA公開日時不明



引用論文のOAの割合(引用時)

→ 最近引用された論文ほど、引用時にOAで入手可能なものの割合が高くなっている傾向が見られる

OA入手不可の論文が2013年にはOAで入手可能に
→ 遡及的に論文のOA化がされている

OAの実現手段

実現手段	件数(本)	割合(%)
OA雑誌	559	82.1%
機関リポジトリ等	245	36.0%
個人のウェブサイト	18	2.6%
分野別アーカイブ等	6	0.9%
購読誌でOA論文を掲載	1	0.1%
無料論文提供サイト	0	0.0%
その他	6	0.9%

→ OAの実現手段は、主にOA雑誌